

塩津地区 かわら版 第2号

塩津地区 まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

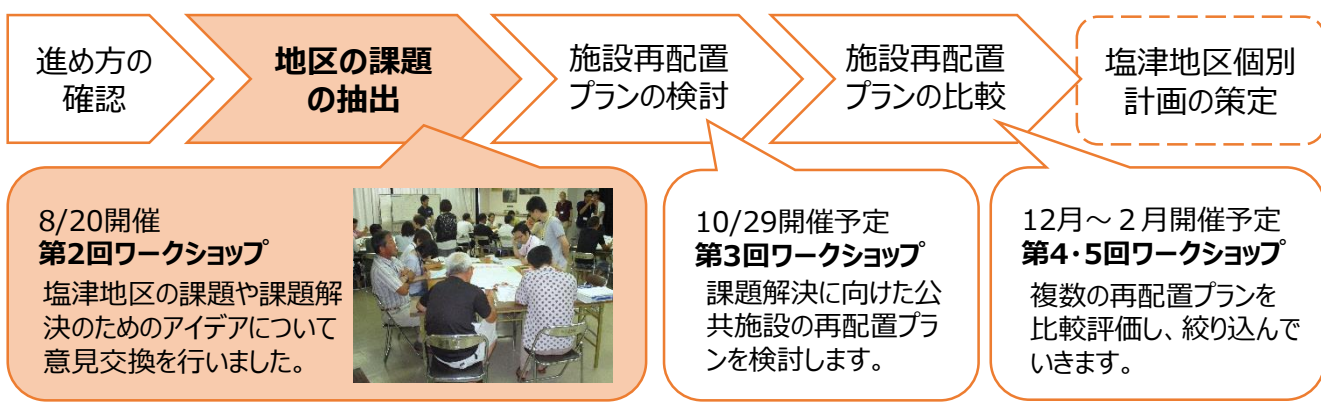
塩津地区の課題とその解決方法について話し合いました。

蒲郡市では、今年度、塩津地区にある公共施設（小学校・中学校・公民館・保育園・児童館）の将来について、地区にお住まいの皆様と協働で考えていく機会として、「塩津地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を開催しています。8月20日(日)に塩津公民館にて開催された第2回ワークショップの内容をお知らせします。

また、ワークショップで話し合われている内容等についてのご意見を募集しています。いただいたご意見は、ワークショップの場で示し、検討を進めていきます。（裏面の「ご意見募集」をご覧ください。）

検討の進め方

蒲郡市は、このワークショップをはじめ、広く地区の皆様からいただいたご意見を反映させた、塩津地区の公共施設の配置や活用方法を示す「地区個別計画」を策定します。下図のように段階的に検討を進めます。第2回ワークショップでは、「塩津地区の課題」と「課題を解決していくためのアイデア」について話し合いました。



ご意見を8つの視点にまとめ、各視点について検討しました。

第2回ワークショップでは、第1回ワークショップでのご意見を踏まえ整理した塩津地区の皆様が大切だと思っている8つの視点について話し合いました。8つの視点の他に追加すべき視点はないか、それぞれの視点について課題を解決するために具体的にどのような取り組みを行ったらよいかについて意見を出し合いました。

以下は、8つの視点と各視点のもとになった第1回ワークショップでのご意見等からの抜粋です。

① 地区の活性化（まちづくり）

- 塩津ならではの特色がない
- 地域交流の度合いに差異がある
- 地区の行事に対応した設備が不十分

② 子育てしやすい環境づくり

- 利用しやすい保育園が必要
- 児童クラブが定員いっぱい
- 子どもの遊び場・居場所の確保

③ 多世代が利用できる場の創出

- 世代間交流の機会と場所をつくる
- 若者の地域への関心が希薄

④ 安全の確保

- 施設の老朽化が進む
- バリアフリー設備が不十分
- 複合化する場合のセキュリティ対策

⑤ 災害時の対応

- 避難所の適正な配置と十分なスペースの確保
- 津波への対応
- トイレ等の設備の充足

⑥ アクセシビリティへの配慮

- 十分な駐車スペース
- 各所から通いやすい施設配置
- 車を持たない方への配慮
- 身近な集会所の充実

⑦ 将来負担（コスト）の縮減

- 人口減少・少子高齢化に伴う税収減
- 土地の売却等跡地利用の検討

⑧ 運営の改善

- 利用率を高める工夫
- 管理体制の明確化
- 情報発信が足りない
- 魅力を感じる施設がない

第2回ワークショップのご意見（抜粋）

各視点について課題を解決するためのアイデアを出し合いました。

① 地区の活性化（まちづくり）

- 公共施設を複合化し行事や活動を一体的にできる場を作り、活性化に結び付けられると良い。
- 学校を核にした複合施設を作れば、子どもから親の世代までが自ずと集まる場になるのではない。
- 駅周辺などに地区の顔となる施設を整備し、地区の特徴をつくり、地域活性化につなげたい。

② 子育てしやすい環境づくり

- 公立保育園の園児が減っている原因を分析し、利用者の要望に応じていく必要があるが、できないのであれば全ての保育園を民営化しても良いと思う。
- 公立保育園はプログラムを詰め込みすぎず、伸び伸びとした保育をしているのが良い点であると思うので、集約化、複合化してもそれを失わないようにするべき。
- 各保育園はそれぞれに特色があり、地域に密着しているので、複合化や集約化をせず今のまま存続すべき。
- アクセスしやすい場所にある施設に集約したり、通園バスを通すことなどでアクセスを確保できれば、徒歩圏内に保育園がなくても市民の理解は得られるのではない。
- 保育園と小学校の複合化を進めたり、幼小中一貫校や小中一貫校にすれば、園児、児童、生徒の世代間交流が深まるという利点がある。
- 学校内に児童クラブを設けるとともに子どもの数が増えた場合に対応できるスペースを確保する。

③ 多世代が利用できる場の創出

- 小、中学校に公民館の機能を複合したり、小学校、児童館、保育園、公民館を複合することができれば、多世代交流が生まれ、高齢者の生きがいにもつながり、地区全体が元気になると思う。
- 公民館は多世代交流の核となる施設だと思うので、民間の喫茶店を入れるなどして開かれた雰囲気を作り、地域の様々な年代、国籍の人が気軽に訪れて交流できる、たまり場のような施設にしたい。
- 障がい者や高齢者が不便なく利用できる様に、多世代交流の場にはエレベーターなどを設置し、バリアフリー化する必要がある。

④ 安全の確保

- 小中学校や塩津公民館は老朽化が進んでいるので、耐震化を図ったり、公民館はしおつ児童館などの新しい施設に複合するなどの対策を早急に取り組む必要がある。
- 学校に施設を複合する際に、出入口をその他の施設とは別にすれば、学校への不審者侵入対策になる。

⑤ 災害時の対応

- 災害時対応の視点から考えれば公共施設は減らさず、ある程度分散していた方が良い。
- 中学校と小学校は立地が異なるので、避難所として補完し合える。集約化してどちらかが無くなるとしても、建物と避難所機能は残すべき。
- 災害時の対応は個人では難しいので、地域ぐるみの課題として考える必要がある。

⑥ アクセス性への配慮

- 小学校と中学校を集約すると、家から遠い人が出てくるので集約しない方がいい。
- 小中一貫校を作った際でも、小中の学区が同じなのでどの場所からも徒歩で通学できアクセス性に問題はない。
- 施設を集約化、複合化する際には、そこまで安全安心に行けるように通学路を整備するなど、アクセスの確保や代替えになりうる施設との分担を考える必要がある。
- 保育園や子ども園、小学校は車を所有していなかったり、乳幼児の弟妹を抱える家族にとっても送迎しやすい立地にするべき。

⑦ 将来負担（コスト）の縮減

- 複合化、集約化によって投資を集中させることで、公共施設の機能を充実させれば良いのではない。
- 保育園の集約化や幼小中一貫校化ができれば、運営コストも人件費も縮減できるのではない。
- 施設を再編することで跡地が発生する場合は、地価の安い方に集約、複合し、高い方の土地を売却することで、予算捻出の助けにできると良い。

⑧ 運営の改善

- 公民館を様々な人が集まるたまり場にしていくためには、地域の人を巻き込めるソフト＝運営が重要になる。
- 公民館は誰もが参加したくなるような魅力的な行事やプログラムを提供し、情報発信していく必要がある。
- これまでの公民館利用の仕方の枠を超えて、仕事や会議、自習などの様々な利用ができる場になると良い。

追加すべき視点

- 塩津地区には外国人が多いので、外国人（多民族）にとっても安心安全で住みやすいまちにすることが大事である。
- 人口が減ることばかりに着目せず、増加する高齢者への対応をもっと考えるべきではない。

ご意見募集

- ワークショップで検討されている内容について
- 塩津地区のまちづくりや公共施設について

右の「お問い合わせ先」まで、メール・ファクス・郵便・持参により、ご意見をお届けください。

差し支えなければ、ご住所、お名前、年齢、性別、連絡先の記載をお願いします。

お問い合わせ先

蒲郡市総務部財務課 公共施設マネジメント担当
〒443-8601 蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1158/FAX 0533-66-1183
E-mail zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップでのご意見や資料等は、市ホームページに掲載しています。

<http://www.city.gamagori.lg.jp/unit/zaimu/machizukuri-kokyoshisetsu.html>